

航空需要予測に関する感度分析について

航空需要予測については、国土交通省所管の他の公共事業関係の長期計画とも整合性をとり、別添のとりのフレームを設定したところであるが、仮に、このような事態にならなかった場合を想定し、感度分析を行っておくことも重要であると考えられる。

このため、2012年度における予測値の感度分析を以下のとおり行った。

①国内旅客について

総旅客数は12,700万人と予測しているが、仮に、以下のような場合を想定すれば、その感度分析結果は次のとおりとなる。

人口が国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成14年1月）の低位推計値（中位推計値の0.9%減）の場合は、旅客数は12,570万人（1.0%減）と予測される。

経済成長率が各年度0.1%伸び率が上昇すると、旅客数は12,980万人（2.2%増）と予測される。

各年度0.1%伸び率が下降すると、旅客数は12,440万人（2.0%減）と予測される。

運賃水準が1%上昇すると、旅客数は12,460万人（1.9%減）と予測される。

1%下降すると、旅客数は12,960万人（2.0%増）と予測される。

②国内貨物について

総貨物量は1,230千トンと予測しているが、仮に、以下のような場合を想定すれば、その感度分析結果は次のとおりとなる。

経済成長率が各年度0.1%伸び率が上昇すると、貨物量は1,250千トン（1.6%増）と予測される。

各年度0.1%伸び率が下降すると、貨物量は1,210千トン（1.6%減）と予測される。

③国際旅客について

総旅客数は8, 660万人と予測しているが、仮に、以下のような場合を想定すれば、その感度分析結果は次のとおりとなる。

人口が国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成14年1月）の低位推計値（中位推計値の0.9%減）の場合は、旅客数は8, 600万人（0.7%減）と予測される。

経済成長率が各年度0.1%伸び率が上昇すると、旅客数は8, 810万人（1.7%増）と予測される。

各年度0.1%伸び率が下降すると、旅客数は8, 520万人（1.6%減）と予測される。

為替レートが10円円高の場合は、旅客数は8, 930万人（3.1%増）と予測される。

10円円安の場合は、旅客数は8, 450万人（2.4%減）と予測される。

④国際貨物について

総貨物量は4, 810千トンと予測しているが、仮に、以下のような場合を想定すれば、その感度分析結果は次のとおりとなる。

経済成長率が各年度0.1%伸び率が上昇すると、貨物量は4, 840千トン（0.6%増）と予測される。

各年度0.1%伸び率が下降すると、貨物量は4, 780千トン（0.6%減）と予測される。

為替レートが10円円高の場合は、貨物量は4, 880千トン（1.5%増）と予測される。

10円円安の場合は、貨物量は4, 750千トン（1.2%減）と予測される。